

平成29年度 大阪府立むらの高等支援学校 第三回 学校協議会記録

日 時：平成30年3月5日（月）15：00～17：00

司 会：教頭

出席者：学校協議会委員（6名）

大阪人間科学大学 特任教授

(株)エルアイ武田（人材開発室 室長）

大阪知的障害雇用促進建物サービス事業協同組合（事務局次長）

北河内西障害者就業・生活支援センター（主任就労支援ワーカー）

枚方市村野区（区長代理）

本校PTA（会長）

学校長 事務局（9名）

1 資料の確認および次第説明（教頭）

2 校長挨拶

3月2日に挙行した卒業式の報告。

1期生進路先について、首席より進路状況の報告。

3 報告

① 「平成29年度学校教育自己診断の結果と報告」について（首席）
資料に基づいて結果の分析を行い、今後の課題について報告した。

② 「平成29年度学校経営計画及び学校評価」について（校長）

③ 「平成30年度学校経営計画（案）」について（校長）

4 協議

A 委員：「学校教育自己診断」の結果で生徒から「校則が厳しい」という意見が多いことについて、他の高等支援学校でも同じ話を聞く。校則について教員も葛藤しているのではないか。教員は3年間で生徒を社会に送り出さなければいけないため、熱心に指導していると思う。生徒は入学後に校則が厳しいことに驚いているのではないか。

B 委員：自分の子どもには、携帯は持たせない、など厳しくしているので学校の規則が厳しすぎるとはあまり思わない。

C 委員：会社には守らなければいけないルールがたくさんある。会社の立場としては学校で規則を守ることを教えてもらうのはありがたい。規則について納得させることが必要。

事務局：校則について家庭への周知としては、入学前に保護者あてに資料を配布、入学後は学年集会で時間をとり、生徒に説明している。

D 委員：卒業後、訓練施設にすすんだ場合、学校でしっかり教えてもらえると規則についての指導・支援が割愛できる。

事務局：携帯などの使用は、校内・登下校中は認めていない。学校の行き帰りに使いたいというのが生徒たちの要望かと考えている。

E 委員：社会に出て行く準備のために学校に通っているのに、厳しいのはあたりまえではないか。規則に関して理解できる教え方が必要だと思う。

A 委員：学校が楽しくない、校則が厳しいという結果の学年ごとの分析はしていないのか。たぶん、第1学年が一番否定的回答率が多く、徐々に学校生活に慣れて理解し減っているのでは。そのような状態をふまえ、まずは許容して徐々に厳しくするというような緩急をつけた指導や1年から3年へのスモールステップの指導の配慮も大切。

「教員への相談」が課題としてあがっている。「相談室」は必要。

事務局：臨床心理士の方に年間を通して依頼しているが、十分に活用できているとはいえない。生徒は普段接している教員に相談したいと思っているのではないか。

A 委員：他の高等支援学校も同じ課題がある。教員が相談にのる時間を確保しているところもある。

事務局：2月から「談話室」という名称で、相談できる場をカフェに開設している。気軽に話ができる場をめざしている。

B 委員：談話室の設定もよいが、教員がさりげなく巡回するなどでは。

A 委員：相談を受ける教員が校内を巡回している学校もある。

F 委員：設問にある「学校が楽しい」の結果が低いと報告されたが、そもそも生徒にとって「楽しい」という基準は何か。定着支援の事例から、仕事中に携帯を使う、趣味を優先する、など「働くとは何か」を基礎から支援しなければいけないケースがある。学校生活は限られた時間なので、見通しを持ってこの課題をしっかり指導してほしい。

A 委員：就労後の反動などが心配。難しいと思うが、校則などの指導は緩急をつける必要がある。談話室の実践はぜひ取り組んでほしい。

教員の回答は学校現場を現していると思う。結果から教員の協働化の弱さが見て取れる。新しい学校は、教員間での信頼関係・連携などがまず必要。

事務局：立ち上げから関わったが、教員に学校の方針など説明が足りないまま毎年教員の人数が急増した。が、一定メンバーが定数を満たしたので、次年度以降「むらの高等支援学校」は良い学校になると思う。

A 委員：2月の「学科成果発表会」に出席したが、教員は一生懸命やっていると思う。教員間でお互いに話し合う時間を確保する必要がある。

- B 委員：先生方は十二分に頑張っている。志が高いゆえの結果ではないか。1 期生が卒業し、実績ができたので、今後積み上げていく中で学校ができあがっていくと思う。
- E 委員：1 期生がほとんど就職という結果はすごい。この自己診断の意見についても教員からオープンに意見が出るのは良いと思う。
- F 委員：教員は真面目な人が多く、目標設定が高いのではないかな。
- D 委員：学校のシステムが固まっていない中、学校評価と良いながら教員の自己評価となっているのでは。今後は良い方向にいくしかない。
- E 委員：学校の立ち上げから 3 年間、たいへんだったと思う。就職後の定着が本当の成果になる。成功体験は大切だが、失敗体験もプラスになると思う。教員間で話し合う時間をとる、生徒と向き合う時間をとることを積極的に行うことが大切。自己肯定感を高める必要がある。
- A 委員：29 年度の学校経営計画について、1 期生の進路結果が高い就労率となった・カフェを中心に地域とつながりを持った・防災マニュアルを枚方支援と合同で作成したなどの点が評価できる。センター的機能としては交流教育が進まなかったようだ。学校間の交流もあるが、「むらの高等支援」については外部関係機関との連携も交流と位置づけることができる。また、外部への販売も交流だと思う。30 年度のビジョンについてはどうか。
- 校長：良い評価をいただき、ありがたい。教員全員の成果である。次年度は 2クールめに入る。どこに特に重点を置くか、など調整をして緩急をつけた学校経営を行いたい。
- C 委員：社会に出るとつらいことが多い。問題に立ち向かう力を在学中につけてあげてほしい。余暇の時間をつくり楽しみを見つけてほしい。
- D 委員：就職者が多いので、今後が問われる。働き続けることはたいへんである。
- F 委員：10 年たって「学生時代に先生に言われた」ことが、傷ついた思い出ではなく良い励ましとして思い出に残るような指導をめざしてほしい。
- E 委員：自立をめざして継続していくと良い評価が続くと思うのでお願いしたい。
- B 委員：一年間 PTA で活動をしたが、先生方の情熱や信念を感じた。取り組みをもっと外部に発信、広報してはどうか。地域の方にも知ってほしい。
- A 委員：29 年度の学校経営計画は詳細な設定で、教員はたいへんであったと思う。しかし、同じ方向にベクトルが向くような経営プランであったと思う。長いスパンで見ると、良い学校になるのでは。先ほど校長が言ったとおり、計画の重点の柱をしっかりとらせて、生徒が通ってよかったと思えるような学校にしていってほしい。
- 事務局：自己診断の結果を受けとめるのは辛かったが、教員は皆一生懸命取り組んでいる。委員の皆様からは応援してもらっていると本当に感謝している。

5 校長挨拶

皆様から意見を頂き元気が出た。皆でさらによい学校を作っていきたい。1期生の卒業文集もできたので紹介する。次年度、学校協議会の組織が変わるが、引き続き応援してほしい。

6 事務局：次年度より「学校運営協議会」にかわることを説明し、閉会。